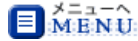




長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I -3. 安全で安心できる社会**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	月1																						
開講期間																									
必修選択	選択	単位数	2.0																						
時間割コード	20120586014103	科目番号	05860141																						
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (リスク社会と社会科学)																								
編集担当教員	穴倉 学																								
授業担当教員名(科目責任者)	穴倉 学																								
授業担当教員名(オムニバス科目等)	穴倉 学																								
科目分類	全学モジュール I 科目																								
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																						
教室	[環]141																								
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部																								
担当教員Eメールアドレス	第一回目の講義において提示する																								
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所2F 206号室																								
担当教員TEL	095-820-6396																								
担当教員オフィスアワー	経済学部東南アジア研究所2F 206号室にて随時・要確認																								
授業のねらい	産業社会の進展による生活水準の上昇の一方で進行したリスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを経済、経営、法の側面から照射し、学問の現段階を理解する。																								
授業方法(学習指導法)	講義資料を配布し、同資料に基づき講義を行う。なお、授業の理解を確認するために進捗に応じて小テストを実施することがある。また、講義中に意見を求めることがあるので、指名された場合は、積極的に発言等を行うよう心がけてもらいたい。																								
授業到達目標	社会科学の観点から、様々な保険制度の根拠や状況を把握するとともに、これらが抱える諸課題について理解すること、現在、政府等で議論されている社会保障の在り方などに対して一定の見解を有することができるようになることを目的とする。																								
授業内容	<p>" 授業において用いる資料を配付し、これに基づき講義を行う。なお、授業が一定程度進捗した段階で、理解度を問うために小テストを実施する。また、時事的な題材をもとにレポートを課す。単位の取得には、同レポートの提出と定期試験の受講が必須となる。</p> <p>なお、受講に当たっては、年金や保険などに関連して、メディアなどで如何なる問題が取り上げられているか関心を持っておくこと。"</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>リスクと保険－様々なリスクと保険の現状－</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>不確実性と市場の失敗－保険供給の在り方－</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>不確実性の理論①－期待効用理論－</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>不確実性の理論②－モラルハザードと逆選択－</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>不確実性の理論③－ライフサイクルと貯蓄－</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>高齢化と所得保障①</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>高齢化と所得保障②</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>健康リスクと医療保障</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>生活リスクと生活保護</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンス	2	リスクと保険－様々なリスクと保険の現状－	3	不確実性と市場の失敗－保険供給の在り方－	4	不確実性の理論①－期待効用理論－	5	不確実性の理論②－モラルハザードと逆選択－	6	不確実性の理論③－ライフサイクルと貯蓄－	7	高齢化と所得保障①	8	高齢化と所得保障②	9	健康リスクと医療保障	10	生活リスクと生活保護
回	内容																								
1	ガイダンス																								
2	リスクと保険－様々なリスクと保険の現状－																								
3	不確実性と市場の失敗－保険供給の在り方－																								
4	不確実性の理論①－期待効用理論－																								
5	不確実性の理論②－モラルハザードと逆選択－																								
6	不確実性の理論③－ライフサイクルと貯蓄－																								
7	高齢化と所得保障①																								
8	高齢化と所得保障②																								
9	健康リスクと医療保障																								
10	生活リスクと生活保護																								

	11 失業リスクと失業保険
	12 少子化と保育保障
	13 社会保障の費用負担の在り方①－税と公債－
	14 社会保障の費用負担の在り方②－世代間問題－
	15 総括－公平と効率－
	16 定期試験
キーワード	リスク、分散、再分配、福祉社会、社会保障
教科書・教材・参考書	" 教科書は指定しない。下記の文献を適宜参考として利用する。 ・阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義(2008)「生活保護の経済分析」東京大学出版会 ・西村周三(2000)「保険と年金の経済学」名古屋大学出版会 ・村上雅子(2003)「社会保障の経済学(第2版)」東洋経済新報社 "
成績評価の方法・基準等	定期試験50%、レポート30%、授業中に実施する小テスト20%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





## シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I -3. 安全で安心できる社会**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586014503	科目番号	05860145
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (科学と技術の安全・安心)		
編集担当教員	林 秀千人		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀千人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀千人、高橋 和雄、田中 俊幸、久保 隆		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環]141		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	hidechto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部流体エネルギー工学研究室		
担当教員TEL	095-819-2516		
担当教員オフィスアワー	月から金8時から8時30分		
授業のねらい	危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養する		
授業方法(学習指導法)	基本的な事項について、抗議により学習をする。さらに、テーマをもとに、みんなで安全・安心について考えて意識を高める。		
授業到達目標	安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごし危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要となります。本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解を深める		
授業内容	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。  第1回 安全と安心の基本的な考え方について 第2回 災害とリスクマネジメントについて 第3回 安全文化について 社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。 第4回から第7回 自然災害と安全・安心 ・長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 第8回から第11回 化学物質の安全・安心 ・身のまわりのさまざまな物質に関して、安全を確保するための規制や法律等さまざまな考え方をもとに、安全への取り組みを紹介し、安全安心を考える。する。 第11回から第15回 電磁波がもたらす影響について ・身のまわりに生じている電磁波を中心に、目に見えないものが身体へ及ぼす影響について、安全をどうとらえ、安全安心へどのように取り組まれているかを紹介し、安全安心を考える。		
キーワード	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心		
教科書・教材・参考書	安全・安心工学入門(古今書院)、必要に応じて資料を配布する。		

成績評価の方法・基準等	数回のレポートにより評価
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I -3. 安全で安心できる社会**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	火2																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20120586013703	科目番号	05860137																														
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (健康と医療の安全・安心)																																
編集担当教員	松田 尚樹																																
授業担当教員名(科目責任者)	松田 尚樹																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松田 尚樹,中山 守雄,大沢 一貴																																
科目分類	全学モジュール I 科目																																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																														
教室	[環]341																																
対象学生(クラス等)	教育学部,経済学部,薬学部,水産学部																																
担当教員Eメールアドレス	nuric@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	先導生命科学支援センター アウトプ実験施設																																
担当教員TEL	819-7163																																
担当教員オフィスアワー	火曜日 9:00~1000(事前連絡により他の日時でも随時応相談)																																
授業のねらい	五感で感じないうちに我々に忍び寄り、健康に重篤な影響を及ぼすこともある原発事故による放射性物質の拡散や鳥インフルエンザ感染の拡大は、人々の安全と安心を大きく揺るがしてきた。本授業では、放射線と人獣共通の感染症を基礎医学生物学及び薬学の観点から正しく理解することを狙いとして、その本体、健康リスク、予防、診断及び治療などに関わる基礎知識を習得する。また、グループディスカッションにより、健康における安全と安心についての自らの考えを深める。																																
授業方法(学習指導法)	3名の教員がオムニバス形式で放射線と感染症を担当し、PCを用いて講義を行う。一部、放射線の測定等のデモンストレーションを行なう。終盤には提示された課題に対するグループディスカッションとプレゼンテーションを行なう。																																
授業到達目標	放射線と放射性物質の基礎、健康影響、利用、測定、防護について正しい知識に基づき自分の考えを導くことができるようにする。また、実験動物および動物実験を取りまく法令体系を理解し、法律を知らないリスク、人獣共通感染症を知らないリスクについて学ぶ。																																
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実験動物:経済動物と愛玩動物の間(10/2 大沢・山中)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>実験動物と動物実験(10/9 大沢)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>動物実験と社会(10/16 大沢)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人獣共通の細菌感染症(10/23 大沢・山中)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人獣共通のウイルス感染症(10/30 大沢)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>放射線とは何か -自然放射線を測ってみる-(11/6 松田)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>放射線の健康影響(11/13 松田)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>放射線防護のための規制科学(11/20 松田)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>東京電力福島第一原子力発電所事故の概要と健康リスク評価(11/27 松田)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>放射線のリスク認知 -社会心理学的アプローチ-(12/4 松田)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>放射性物質とは何か -放射性物質の発見から利用へ-(12/11 中山)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>放射性物質から身を守るには(12/18 中山)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>放射能を測定するには -食品中の放射性物質-(1/8 中山)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>放射線に関する課題提示、グループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備(1/15 中山)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	実験動物:経済動物と愛玩動物の間(10/2 大沢・山中)	2	実験動物と動物実験(10/9 大沢)	3	動物実験と社会(10/16 大沢)	4	人獣共通の細菌感染症(10/23 大沢・山中)	5	人獣共通のウイルス感染症(10/30 大沢)	6	放射線とは何か -自然放射線を測ってみる-(11/6 松田)	7	放射線の健康影響(11/13 松田)	8	放射線防護のための規制科学(11/20 松田)	9	東京電力福島第一原子力発電所事故の概要と健康リスク評価(11/27 松田)	10	放射線のリスク認知 -社会心理学的アプローチ-(12/4 松田)	11	放射性物質とは何か -放射性物質の発見から利用へ-(12/11 中山)	12	放射性物質から身を守るには(12/18 中山)	13	放射能を測定するには -食品中の放射性物質-(1/8 中山)	14	放射線に関する課題提示、グループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備(1/15 中山)
回	内容																																
1	実験動物:経済動物と愛玩動物の間(10/2 大沢・山中)																																
2	実験動物と動物実験(10/9 大沢)																																
3	動物実験と社会(10/16 大沢)																																
4	人獣共通の細菌感染症(10/23 大沢・山中)																																
5	人獣共通のウイルス感染症(10/30 大沢)																																
6	放射線とは何か -自然放射線を測ってみる-(11/6 松田)																																
7	放射線の健康影響(11/13 松田)																																
8	放射線防護のための規制科学(11/20 松田)																																
9	東京電力福島第一原子力発電所事故の概要と健康リスク評価(11/27 松田)																																
10	放射線のリスク認知 -社会心理学的アプローチ-(12/4 松田)																																
11	放射性物質とは何か -放射性物質の発見から利用へ-(12/11 中山)																																
12	放射性物質から身を守るには(12/18 中山)																																
13	放射能を測定するには -食品中の放射性物質-(1/8 中山)																																
14	放射線に関する課題提示、グループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備(1/15 中山)																																

	15	グループ・プレゼンテーション, 全体討論(1/22 中山)
	16	定期試験(2/12)
キーワード	放射線、放射能、原子力、感染症、動物実験	
教科書・教材・参考書	<p>テキストは用いず、授業計画に沿った資料を配布する。資料はWebclassでも閲覧可能。</p> <p>参考図書:</p> <p>やさしい放射線とアイソトープ (社)日本アイソトープ協会 丸善(1,000円)</p> <p>原子力災害に学ぶ放射線の健康影響とその対策 長瀧重信著 丸善出版(2,500円)</p> <p>リスクのモノサシ・安全・安心生活はありうるか 中谷内一也著 NHKブックス(970円)</p> <p>実験動物としてのマウス・ラットの感染症予防対策 (社)日本実験動物学会監修 アドスリー(2,650円)</p>	
成績評価の方法・基準等	定期試験70%、授業中の課題に対する積極的な取組状況30%	
受講要件(履修条件)	なし	
本科目の位置づけ	教養科目	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	放射線、感染症に関する情報(新聞、テレビ、ネット、種類は問わない)にアンテナを立てておくこと。	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.